

「エルサレムの朝課」をめぐって

— 「エンコーミア」を中心に—

秋 山 学

1. 「エルサレムの朝課」とは.

ビザンティン典礼教会（東方正教会・東方典礼カトリック教会）では、イエスが十字架の上に刑死する聖金曜日と、彼が早朝に蘇る復活の主日の間に位置する聖土曜日の朝、「エルサレムの朝課」と呼ばれる典礼が執り行われる。この日はちょうど、キリストが死から復活へと向かう過渡期に当たるが、イエスは死者としてこの日に「冥府降り」を行い、黄泉に眠っていた人祖・アダムとエヴァを地中から引き出して、翌日彼らとともに復活した、とする伝承が東方では広く伝えられ、ビザンティン教会のイコン「アナスタシス」（「復活」）を通じてよく知られている（秋山 2006）。「エルサレムの朝課」は、この「冥府降り」を典礼の上で表現するものだと言える。

筆者は 2005～6 年に行った在外研究（2005 年度 筑波大学国際連携プロジェクト 長期派遣）以来、ハンガリーのギリシア・カトリック教会を中心に、ビザンティン教会の典礼を体験調査してきた（秋山 2010ab）。近年、ビザンティン神学の本質は、おそらくこの「聖土曜日の朝課」に最もよく集約されるものと考え始めている（なおハンガリーのギリシア・カトリックにおけるこの「エルサレムの朝課」の実際については、ユーチューブによる貴重な録画が以下の URL より視聴可能である；<https://www.youtube.com/watch?v=GT0RZYal99w>）。

この聖土曜日の朝課は、詩編第 118 編（ギリシア語 70 人訳による番号；ヘブライ語では第 119 編に相当する；秋山 2020）と、この「エルサレムの朝課」に固有の「讃歌」（「エンコーミア」）とが、交唱形式のうちに唱えられつつ進んで行く。本稿には、この「讃歌」に関して、ギリシア語の原文をもとに、ハンガリー語訳を参照しつつ拙訳を提示する。神学的解釈によれば、この際に唱えられる詩編第 118 編は、死して墳墓に眠るキリストの言葉に当たる一方、「讃歌」は生命の側からの応答という位置づけを得る（Lakatos 2008: 592-609）。また詩編第 118 編が、この「讃歌」（エンコーミア）からの照らし

のもとにここで唱えられるということは、旧約聖書に対する「予型論的解釈」の一つの典型が、ギリシア語訳テキストを通じ、極まった形において、聖土曜日の朝に行われることを意味しよう（秋山 2021）。

この「エルサレムの朝課」をめぐる、パパドプウロス・ケラメウスの編纂になる「エルサレムの祈祷文撰集」第2巻（Papadopoulos-Kerameus 1894）の1-254頁に収められる「エルサレム教会のテュピコン（次第書）」の冒頭には、「われらの主なるイエス・キリストの受けた苦難の大週に關しての、その聖なる式次第（アコルーティア）の記述。これはエルサレム教会の、ないし復活聖堂における古き習慣に拠るものであり、1122年の写本に基づいて提示される」と記されている。この写本とは、エルサレム・十字架修道院所蔵の第43番であるが、聖土曜日の朝課の次第は同刊本の162-179頁に含まれている。ここには上に触れた「エンコーミア」については言及がないものの、「詩編第118編」（冒頭の句をとって「咎なき者たちは幸い」と呼ばれる）については指示があり（*ibidem* 163）、詩編第118編が聖土曜日の朝課で読まれる慣習は、きわめて古くに遡るものであることが推測される。

この「讃歌」（エンコーミア）は以下、3つの「スタシス」（「部」）より成る。このように「3」を基調とする構造は、ビザンティン典礼の至るところに見られる特質である。本編と対句形式で読誦される詩編第118編が、総計176節より成るのに合わせ、本詩編も基本的には計176節より成るはずである。だが実際には、各スタシス末尾で「栄唱」などが挿入され、それに対応する句も付加されているため、総計の節数は増える計算になる。

なおギリシア正教会より刊行されている『トリオディオン』では、下記の句のうち、47)に重複が認められる（*Τριώδιον* 1856: 401）。すなわち同書では、下記47)に關して、これを47a)「たとえ死者と映ろうとも、神として生けるものであるあなたは、イエスよ、地上から天上に向けて、地上へと墮ちた者たちを引き上げる」、および47b)「たとえ死者と映ろうとも、神として生けるものであるあなたは、死せる者たちであった人類に生命を賦与し、わが死性を死より解放された」の二句に数えている。これらについては、明らかに前半部が重複している。下記の拙訳では、この部分に対し、前掲したラカトシュ師の判断に従い、47a)の前半と47b)の後半をつないで一句と考え、47)と考えている。これに伴い、ギリシア正教会版では、対句となる詩編第118編に關して、47b)に後接する格好となる第48節「わたしはあなたの規律に対し、おのが両の手を挙げる。それはわたしが愛するもの。そしてわたしはあなたの掟

について思い巡らす」について、「そしてわたしは」の前で二分し、同節を二句に分けて扱うことで、数字のずれが以降に及ぶのを最小限に留めている。

2. 通常の朝課の構造と「エルサレムの朝課」の関係

イヴァンチョー・イシュトヴァーン師による名著の一つ、『ギリシア・カトリック教会の典礼学』(Ivancsó 2000: 114-119)によれば、主日の朝課の構造は次の26個の要素より成る。なお訳語については、既発表の拙稿(秋山2010a)を参照願いたい。

- 1) 初めの祝福。
- 2) 「天のいと高きところには神に栄光」×3。
- 3) 「6つの詩編」。ギリシア番号で順に、詩編第3, 37, 62, 87, 102, 142編が唱えられる。
- 4) 大連祷。
- 5) 「主こそ神」
- 6) トロパリオン(復活主題と聖人主題)および復活散会聖母讃歌(散会とあるのは、前晩晩課の末尾で唱えられた讃歌(テオトキオン)と同一であるため。
- 7) カティズマとカティズマリオン。
- 8) 「多憐歌」。
- 9) 復活讃歌。通常6連より成る。初めの4連については、これを詩編第119(118)編より「主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ」が先導する。
- 10) ヒュパコエ。
- 11) 詩編120(119)~134(133)編、すなわち金曜の朝課にて通常唱えられる詩編(第18カティズマ)より取られた「昇階唱」。
- 12) プロケイメノン。後に続く福音を聞く準備の意味。
- 13) 福音朗読。
- 14) 「キリストの復活を目にして」
- 15) 詩編第51(50)編。
- 16) 福音接吻スティヒラ。
- 17) 特連祷。

- 18) カノン：全9歌（通常は8歌）より成る。コンタキオンとオイコスを含む。
- 19) 「主は聖」
- 20) 「光の歌」と「聖母讃歌」
- 21) 讚美スティヒラ。
- 22) 大栄唱。
- 23) トロパリオン。
- 24) 三重連祷。
- 25) 完遂連祷。
- 26) 閉祭。

このうち、第9区分に当たる「復活讃歌」については、聖土曜日の朝課にあっても、本稿で訳出紹介する「エンコーミア」（+詩編第119(118)編、以下詩編第119(118)編までを含めて「エンコーミア」と略称する）に続けて唱和される（本稿ではこの「復活讃歌」までを収録した）。したがって本稿に訳出される「エンコーミア」は、上記の表では第8)区分までに相当すると言える。実際、後程確認するようにこの「復活讃歌」の中には「主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ」との句が見られるが、この句は詩編第119(118)編より採られたものであるので、詩編第119(118)編から「復活讃歌」への連続性は緊密な形で行われている。

では次に、上表にならって「エルサレムの朝課」の全体的な構造をも以下に記すことにしよう。

- 1) 初めの祝福。
- 2) 「天のいと高きところには神に栄光」×3。
- 3) 「6つの詩編」。ギリシア番号で順に、詩編第3, 37, 62, 87, 102, 142編が唱えられる。
- 4) 大連祷。
- 5) 「主こそ神」

これより、通常の朝課の次第からの乖離が大きくなるため、訳出と筆者による解説を交える。

- 6) トロパリオン：

「神を畏れるヨセフは、十字架の木よりあなたのけがれなき体を取り降ろし、香油を塗って浄らかな亜麻布に包むと、新しい墓にうやうやしく安置した」。～このトロパリオンは、前晩聖金曜日より継続される主テーマである。

「栄光は父と子と聖霊に」。

「おお不死なる生命よ、あなたは死に降られるとき、神性の輝きで冥府を亡きものとした。そしてあなたが死せる者どもを地下より引き上げたとき、天上の諸力はこぞって叫びを挙げた。われらの神、生命の与え主であるキリストよ、あなたに栄光あれ」。

「今もいつも世々とこしえに」。

「香油を携える女たちに対し、天使は墓の傍らに立ち、こう叫んだ。香油は死者たちこそ似つかわしい。だが、キリストは腐敗とは無縁なる方であることが示された」。

これに続いて注記が入る。「この後、下記のようなトロパリオンと讃歌の読誦に移る。そのトロパリオンは別の名を「エンコーミア」と言い、これを、「幸いなる者たち」すなわち詩編第119(118)編に続いて、3つに区分して読む。「エンコーミア」の句は、詩編の各節ごとに一句ずつ読まれる」。これ以降の部分を本稿次節に訳出することになる。本稿には「エンコーミア」に続く「復活讃歌」までを訳出したため、「エンコーミア」は、ちょうど 7) カティズマとカティズマリオン、および 8) 「多憐歌」に相当する位置を占めるわけである。

9) 復活讃歌に続き、聖土曜日には小連祷以下、「カティズマ」そして『マタイ福音書』(第114分節)の朗読が行われ、詩編第51(50)編、そして「カノン」へと続いてゆく。まず「カティズマ」を訳出しておく。

「浄らかな亜麻布、および神々しき香油をもって、ヨセフは畏れ多き遺体をピラトに申し出て受け取り、塗油の上で新しき墓に安置する。朝まだきに、その墓へ香油を携えた婦人たちは、こう叫びを挙げる。キリストよ、仰せの通り、われわれに復活を示したまえ」。

「栄光は父と子と聖霊に」。

「キリストよ、仰せの通り、われわれに復活を示したまえ」。

「今もいつも世々とこしえに」。

「天使たちの合唱隊は、父の懐に主が坐しているのを目にし、不死なる方が

なぜ死者として墓に納められているのかに驚嘆する。天使たちの戦列は、この方を取り囲み、冥府にいる死者たちとともに、この方に栄光を献げる、創造者また主として」。

続くマタイの第114分節は、同福音書第27章62節から66節に相当する。福音朗読は上表では13、詩編第51(50)編朗読は15に相当するが、「キリストの復活を目にして」の句は、まだ聖土曜日であるために歌うことが叶わない。また後ほど見るように、聖土曜日の主たる聖書朗読は後廻しにされる。したがって、ファリサイ派の人々が番兵にイエスの墓を見張らせる次第を記した『マタイ福音書』からの朗読が、一旦ここで行われるのではあるが、これは聖土曜日のメッセージの核心部分を伝えるものではないと言える。詩編第51(50)編)に続き、聖土曜日にはカノン(18)に移行する。同第6歌の後にはコンタキオンとオイコスも含まれ、上表と同様である。そしてこのオイコスの後、聖土曜日特有の「シュナクサリオン」と呼ばれる長大な朗読が挿入され、再び第7歌以降の次第に戻る。第9歌の後には「主は聖」(19)が歌われるが、これは「光の歌」(20)をも覆う。「光の歌」は復活に相応しく、土曜日にはまだ復活が成就していないためである。続いて「讚美スティヒラ」(21)、そして「大栄唱」(22)へと移る。

聖土曜日に特徴的なのは、この後に、前掲した「神を畏れるヨセフは」のトロパリオン、および旧約預言書に先立つ「プロフェティコン」(ないし「預言書のトロパリオン」)を介した後、ようやく「プロケイメノン」(12)に始まる旧約預言書の朗読(エゼキエル37:1-14)、もう一つのプロケイメノンと使徒パウロ書簡の朗読(1コリント書5:6-8およびガラテヤ3:13-14)、アレルヤ、そして福音朗読(13に相当;マタイ28:1-2)という段取りで、聖書朗読が行われる点である。すなわち上表では、通常の朝課にあっては福音朗読がその中心的位置を占めているのに対し、聖土曜日には、クライマックスを翌日の復活に向けて高めてゆくべく、効果的な神学的演出が行われていると言えよう。

「プロフェティコン」を訳出しておく。

「キリストよ、あなたは世界の境界を、墓に閉ざされることで包容し、冥府への降下を受け入れ、人間性を贖って不死なるものとし、不死なる神としてわれわれを生ける者とした」。

福音朗読の後には、完遂連禱(25)から閉祭(26)に向けて、通常の朝課と同

じ順序を踏む。

なお、以下の「エンコーミア」にあつては、「スタシス」と呼ばれる区分が3個設けられ、全体が3部構成になっている。ちなみに先述のイヴァンチョー師によるもう一冊の名著『ギリシア・カトリック典礼次第』(Ivancsó 1999: 225)には次のように記されている。

「朝課の完全な遂行の上で、典礼書の類は第3カティズマの祈祷をも定めているが、これは「多憐歌」(※上記第8区分)を歌わない主日(※歌うのは、9月22日から12月19日まで、および1月15日から大斎前日“乳断ち”までの間の主日)においてである。この第3カティズマとして用いられるのは、詩編第119(118)編すなわち第17カティズマに限られる」。

「エンコーミア」において第1スタシスと第2スタシス、第2スタシスと第3スタシスを区切るのは、詩編第119(118)編の第72節末尾、および第131節末尾であるが、これらは、上記のような形で第3カティズマとして第17カティズマ=詩編第119(118)編が朗読される場合の区切り方と同様である。換言すれば、詩編第119(118)編を3区分する際には、必ず1-72、73-131、132-176という節区分で区分されるということである。つまり、通常の朝課において、第1・第2カティズマの読唱が占める分量の相当分を、詩編第119(118)編と交互に読唱される(狭義の)「エンコーミア」が埋める、という格好になる。

では以下、詩編第119(118)編(片ブラケット、]付き節番号)との交唱のかたちで読誦される「讚歌」(エンコーミア;片パーレン、)付き節番号)の拙訳を掲げることとする。訳出に当たっては、ギリシア正教会刊のギリシア語原典(*Τριώδιον* 1856)とともに、ハンガリーのギリシア・カトリック教会より出版されている典礼書(Orosz 1998)をも参照した。詩編第119(118)編についても、拙訳により併せて掲げてあるが、この部分については、既発表の拙稿(秋山 2020)で披露した訳文を、必要な修正を施した上で再録してあることをお断りしておく。

3. エルサレムの朝課の「讃歌」(エンコーミア) —試訳—

第1スタシス (計72節)

○主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ。

第1スタシス

1] 幸いなる者たち、それは道を全うし、主の法を歩む者たち (詩編第119 (118) 編より。以下同様)

エンコーミア

- 1) キリストよ、あなたは生命そのものでありながら、墓に葬られた。そこで天使たちの群れは驚嘆した、あなたの降下を讃えながら。
- 2] 幸いなる者たち、それは主の証しを遵守し、まったき心でそれを尋ね求める者たち。
- 2) あなたは生命であるのに、どうして死ぬことができたのか。あなたがどうして、墓に住まうことができようか。それは、あなたが死の王国を滅ぼしたため、そして死せる者たちを冥府から蘇らせたため。
- 3] 彼らは悪事を働かず、主の道を歩む。
- 3) われらの王なるキリストよ、われらはあなたを褒め称える。そしてあなたの墓と苦難とを崇敬する。なぜならこれらをもって、あなたはわれらを死から救い出されたが故に。
- 4] あなたはあなたの定めを、墨守するようにと課す。
- 4) 王なるキリストよ、あなたは地に境界を設けた方、きょうあなたは狭隘な墓に住まう、それは死せる者たちを墓から蘇らせるため。
- 5] 願わくは、わが道があなたの掟を守る上で揺るがぬものであれかし。
- 5) わがキリストなるイエス、万物の王よ、あなたは何を求めて冥府に住む者たちの許へ来たったのか。それは、人類を救い出すため以外の何のためだったのか。
- 6] そしてわたしが、恥じることなくあなたの規律のすべてに専心できるように。
- 6) 万物の支配者は、死せる者と見なされた。そして新しい墓に葬られた。死者たちの墓を空にして。
- 7] わたしは、あなたの正しき裁きを学ぶに際し、直き心もて感謝をささげ

- る。
- 7) キリストよ、あなたは生命そのものであるにもかかわらず、墓に葬られた。そしてあなたは、あなたの死をもって死を滅ぼし、世に生命をもたらした。
- 8] わたしはあなたの掟を守ろう、あなたがわたしをとこしえに見棄てることのないように。
- 8) キリストよ、あなたは悪しき者らとともに、悪しき者として裁かれた。われわれすべてを、義しき者とし、いにしえの悪行の罟から解放するために。
- 9] 若者は何をもって自らの道を浄めるのか。あなたの言葉を守ることによってである。
- 9) あなたは、すべての人間の前に見る影もなき死者と映りつつも、その美において盛りにあり、万物の本性を美しきものとした。
- 10] わたしはまったき心であなたを探し求めよう。あなたの規律から逸れぬようにさせたまえ。
- 10) 救い主よ、冥府はあなたの降臨にどうして堪えられようか。むしろ速やかに光を失い、あなたの光の輝きのまぶしさに盲目となって、打ち碎かれるのではなかろうか。
- 11] わたしは心に秘す、あなたの言葉を。あなたに対して罪を犯さぬように。
- 11) わが甘美なるイエス、救いの光よ、あなたはどのように闇深き墓のうちに身を隠されたのか。おお語り得ぬ、言葉にもできぬ堪忍よ！
- 12] 主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ。
- 12) 知性界の群れなす非物体的な自然も、キリストよ、あなたの語るべからざる、言葉にし得ぬ埋葬の神秘のために、途方に暮れる。
- 13] わたしはわが唇で伝える、あなたの口のすべての裁きを。
- 13) おお奇異なる驚異よ！おお新奇なる出来事よ！わが息吹の導き手は息せぬものとなり、ヨセフの両手に抱かれて葬られた。
- 14] あなたの智の道にあって、わたしは悦ぶ、すべての富に優るものとして。
- 14) そして、キリストよ、あなたは墓のうちに身を潜めつつも、父祖たちの胸から離れるがなかった。これは奇異にしてかつ予想だにできなかったこと。
- 15] わたしはあなたの定めを思い巡らす。そしてあなたの道に目を注ぐ。
- 15) 天空と大地の真なる王である方、イエスよ、あなたは、いとも小さき墓に閉じ込められていようと、すべての被造物に知られていた。
- 16] わたしはあなたの定め喜び、あなたの言葉を忘れることがない。

- 16) 天蓋の創造者であるキリストよ、あなたが墓に納められたとき、冥府の礎石は揺らぎ、死者たちの塚はその蓋を開けた。
- 17) あなたの僕の上に恩恵を授け、生かしたまえ。わたしはあなたの言葉を守ろう。
- 17) 彼は、大地を支配しながらも銀貨と引き換えに死せる者とされた。今その肉体は大地によって制せられるも、死者たちを冥府の桎梏から解放する。
- 18] わが両の目を開きたまえ、わたしがあなたの法に驚異を観想できるように。
- 18) おおわが生命なる救い主よ、あなたは死して亡き者たちの許に赴き、冥府のかんぬきを打ち砕いて、腐敗から立ち上がった。
- 19] わたしは地上における寄留者。あなたの規律をわたしに隠すことなかれ。
- 19) 神の肉は、今や光の松明の如くに、大地の下、あたかも一握りの土に隠されるかの如く、冥府に広がる闇を駆逐する。
- 20] わたしは砕かれた心で、あなたの裁きをいついかなる時にも求める。
- 20) 思惟界の兵の群れは、ヨセフとニコデモに付き随う、それは、小さき墓には収めきれぬあなたを覆わんがため。
- 21] あなたは高ぶるものを低くし、あなたの規律に背く者を厭われる。
- 21) あなたは自らの意志で亡き者とされ、大地の下に葬られたが、生命に溢れるわがイエスよ、あなたは、苦き違法のために死した者と化していたわたしを生かされた。
- 22] そしりとさげすみを取り去りたまえ。わたしはあなたの知を守る。
- 22) すべての被造物は、あなたの苦難のために様変わりした。なぜなら御言葉よ、万物は、あなたが万物を容れる器であることを知って、あなたと共に苦悩したのだから。
- 23] たとえ支配者たちがわたしに悪意を抱こうとも、あなたの僕であるわたしは、あなたの掟を思い巡らす。
- 23) 生命の巖を、その懐に抱きつつ、すべてを食い尽くすハデスは、自ら吐き出した。永遠のいにしえより飲み込んでいた死者たちを。
- 24] あなたの知はわが喜び。わたしを諭す力。
- 24) キリストよ、あなたは新しき墓に収められ、人類の本性を新たにし、神に相応しく死者のうちから復活した。
- 25] わが魂は死の床に臥す。あなたの言葉に従い、わたしを生かしたまえ。
- 25) あなたは大地の面に降り立った、アダムを救わんがため。だが主よ、あな

- たは地上には彼を見出し得なかったため、彼を探して冥府にまで降られた。
- 26] わたしはあなたの道を語り、あなたはわたしを聞き届けて下さる。あなたの掟を学ばせたまえ。
- 26) 御言葉よ、全地は恐れゆえに混乱に陥り、光をもたらす者の光線から隠れた。最大の光であるあなたが、大地に隠れたがために。
- 27] あなたの定められた道を覚らせたまえ。わたしはあなたの奇しき業に思いをはせる。
- 27) 救い主よ、あなたは自ら進んで、人として死を被る。だが神として人々を、墓から、そして罪の淵から蘇らせた。
- 28] わが魂は悲しみに打ちひしがれる。あなたの言葉の通り、わたしを立ち上げさせたまえ。
- 28) 清らかな女性は、おおイエスよ、あなたに対して母として、涙ながらの挽歌を注ぎ、こう叫ぶ。息子よ、わたしはあなたをどのように弔えばよいのか？
- 29] 悪の道をわたしから遠ざけたまえ。そしてあなたの法をもってわたしを憐れみたまえ。
- 29) 一粒の麦種の如くに、あなたは大地の懐に沈み、多くの実りをもたらす穂を繁らせた、アダムの裔なる人々を蘇らせて。
- 30] わたしはまことの道を選び、あなたの裁きを貶めることがない。
- 30) あなたは、いま太陽がそうであるように、大地の下に身を隠し、死の夜以来身を隠しておられる。だが救い主よ、より輝きを増して昇り来たりたまえ。
- 31] 主よ、わたしはあなたの論しから離れない。わたしを辱めたもうな。
- 31) 救い主よ、ちょうど月が太陽の日輪を隠すが如くに、いま墓があなたを隠してしまった。あなたは肉的に死に赴いたのだ。
- 32] あなたの規律の道をわたしは走る。あなたはわが心を広げられた。
- 32) キリストは生命として死を享受し、死から人間を自由にした。そして今や、すべての人々に生命を賜った。
- 33] 主よあなたの掟の道をわたしに教えたまえ。わたしは最後までそれを宝物としよう。
- 33) かつて死した者となったアダムに嫉妬するかの如く、あなたは自ら死を被ることによって、アダムを生命へと呼び寄せた。若き救い主よ、あなたは肉のうちに現れたアダム。

- 34] わたしに理解を授けたまえ、わたしはあなたの法に随い、心を込めてそれを守ろう。
- 34) 思惟界の諸位階は、われらのために死者を解き放った後、救い主よ、あなたを目にして驚きをなす、翼に身を隠しつつ。
- 35] あなたの規律の小道を歩ませたまえ。わたしはそこに喜びを見出す。
- 35) 御言葉よ、ヨセフは屍となったあなたを十字架から取り降ろし、今や墓に葬った。だがあなたは神として、万人を救うために復活する。
- 36] わが心をあなたの論しに向けさせたまえ。そして不正な益には目を向けさせたもうな。
- 36) 救い主よ、天使たちの喜びであったあなたは、今や彼らにとっての苦悩の原因ともなった。あなたが肉体を取り去られ、苦しみなき死者となったがために。
- 37] わが両の目を虚しきものを見ることから逸らせたまえ。あなたの道にわれを生かさせたまえ。
- 37) あなたは十字架に挙げられることにより、生ける人間たちをも共に挙げる。だが大地の下に降るとき、大地の下に眠れる者たちを、そこから引き出して蘇らせる。
- 38] あなたの言葉をあなたの僕に立てたまえ。あなたへの恐れのために。
- 38) 救い主よ、あなたは獅子の如くに、肉を伴って眠りに就いた。そしてあなたかも若獅子の如くに蘇った、肉の老いをうち棄てて。
- 39] わたしが恐れるわたしへの嘲りを逸らせたまえ。あなたの裁きは良きもの。
- 39) アダムの脇腹を手にとったあなたは、そこからエヴァを形作り、脇腹を貫かれて、清めの泉を湧き出させた。
- 40] 見よわたしは待ち望む、あなたの定めを。あなたの義においてわたしを生かしたまえ。
- 40) 以前には、隠れた場で小羊がいけにえとされた。だが悪を忍耐する救い主よ、あなたは日のもとで犠牲に献げられ、あらゆる被造物を浄めた。
- 41] 主よあなたの慈しみをわたしに来たさせたまえ、あなたの仰せの通りに、あなたの救いをわたしに来たさせたまえ。
- 41) 誰が語れるだろうか、実に恐るべき新しい仕方。なぜなら被造物の支配者は、今日苦難を受け、われらのために死んでおられるのだ。
- 42] わたしを嘲る者に対しわたしが言葉で応えられるよう、わたしはあなたの

言葉に信を置く。

- 42) 生命の宝庫が、どうして死した姿で見られようか？ 天使たちは驚きのあまり叫ぶ。「どうして神が墓のうちに閉ざされ得ようか？」
- 43] わが口からあなたのまことの言葉を取り去りたもうな。わたしは真にあなたの裁きを待ち望む。
- 43) 救い主よ、槍に貫かれたあなたの脇腹から、あなたは生命を滴らせ、生命よりの生命でもってわたしを生かし、わたしをその生命でもって生ける者とされた。
- 44] わたしは守ろう、あなたの法を止むことなく永遠に、とこしえに。
- 44) イエスよ、あなたは十字架の木に引き伸ばされ、人類を呼び集める。だが生命をもたらすあなたの脇腹を貫かれて、あなたはあらゆる赦しを注ぎ出す。
- 45] わたしは歩もう、広き場所で。なぜならあなたの規律をわたしは尋ね求めるがゆえに。
- 45) 救い主よ、かの神を畏れる者は、おののきつつも支度を整え、あなたを死者として見目麗しく葬り、あなたの恐れ多き姿に驚きをなす。
- 46] わたしは語ろう、あなたの論しを、王たちの前で。そしてわたしは恥じることはない。
- 46) イエスよ、あなたは自らの意志により、死した者として大地の下に降ったが、そこに倒れていた者たちを、天上へと引き上げた。
- 47] わたしはあなたの規律を楽しむ、それはわたしが愛するもの。
- 47a) 【※ダブリ】 たとえ死者と映ろうとも、神として生けるものであるあなたは、イエスよ、地上から天上に向けて、地上へと墮ちた者たちを引き上げる。
- 48a] わたしはあなたの規律に対し、おのが両の手を挙げる。それはわたしが愛するもの。
- 47b) たとえ死者と映ろうとも、神として生けるものであるあなたは、死せる者たちであった人類に生命を賦与し、わが死性を死より解放された。
- 48b] そしてわたしはあなたの掟について思い巡らす。
- 48) おお何という喜び！ おお大なる楽しさ！ あなたは冥府に住まう者たちを、この歓喜で満たし、暗鬱な淵にある彼らに光を放った。
- 49] あなたの僕に御言葉を思い起こさせたまえ。それはあなたがわたしに待ち望ませたもの。

- 49) 人間愛に満ちた方よ、わたしはあなたの苦難に跪き、葬礼を讃美し、あなたの力を誉め讃える。それらにより、わたしは腐敗をもたらず情動から解き放たれる。
- 50] これこそ、わが悩みにおけるわたしの慰め。なぜならあなたの仰せはわたしを生かすもの。
- 50) キリストよ、あなたに抗して剣は輝きを放った。そして力ある者の剣は鈍り、エデンの園の剣はその向きを変じた。
- 51] 高ぶる者たちは、限りなくわたしを嘲笑する。わたしは退くまい、あなたの教えから。
- 51) 雌羊は、雄羊が屠られるのを目にしてその心痛は最高潮に達し、呻きを挙げれば、群れをも叫びへと突き動かす。
- 52] 主よ、わたしは想い起こす、永遠の昔からのあなたの裁きを、そして慰めを受ける。
- 52) 救い主よ、たとえあなたが墓に納められようとも、たとえあなたが冥府に赴こうとも、キリストよ、あなたは墓を空にし、冥府を裸にした。
- 53] 悪しき者たちゆえに、激しい怒りがわたしを捉えてやまない。彼らはあなたの法を見棄てる者たち。
- 53) 救い主よ、あなたは自ら進んで地下にまで降り、死者とされていた人々に生命を与え、父祖の栄光のうちに天上界へと挙げた。
- 54] わたしにとって、あなたの掟は讃歌に他ならない。わたしの住まう家において。
- 54) 三位一体の一者である方は、われらのために、忌々しき死を肉のうちに甘受した。太陽は戦慄し、大地は震撼した。
- 55] 主よ、夜のうちにわたしはあなたの名を想い起こす、そしてわたしは守る、あなたの法を。
- 55) いわば苦き泉から出すかのように、ユダの族から出た者たちは、マンナを与える育み手イエスを、溜め池のうちに収めた。
- 56] それはわたしのもの、わたしはあなたの定めを守る。
- 56) 裁き手は裁かれる者として、裁判官ピラトゥスの前に立ち、死が正義に悖るということを証しし、十字架の木を通じて断罪された。
- 57] 主よあなたはわが一部、それはあなたの言葉を守らんがため。
- 57) 尊大なイスラエルよ、血にまみれた民よ、なぜあなたはバラッパを苦しみから解放し、救い主を十字架に委ねたのか。

- 58] わたしはあなたの御顔を願い求める。心のすべてをもって。あなたの言葉どおりに、わたしを憐れみたまえ。
- 58) その御手で、大地よりアダムを創られたあなたは、アダムのために本性的に人間となった。そしてあなたの意志により、十字架に懸かった。
- 59] わたしは自らの道を心に留め、そして自らの歩みを返す、あなたの論しに向けて。
- 59) 御言葉よ、あなたは唯一なる父に聴き従って恐ろしき冥府にまで降り、人類を蘇らせた。
- 60] わたしは急ぎ、ためらうことがない。あなたの規律を守ることにおいて。
- 60) ああ世の光よ！ ああわが光よ！ わが最愛のイエスよ！ おとめは胸を打ちつつ慟哭して叫んだ。
- 61] 悪しき者たちの縄がわたしを取り巻いても、わたしは忘れない、あなたの法を。
- 61) 妬みの行者にして殺戮の主、残忍な民よ！ 亜麻布と覆いにですら、お前は恥じ入るがよい、キリストが蘇るときには。
- 62] 夜半にわたしは身を起こし、あなたに感謝する、あなたの義の裁きをめぐって。
- 62) さあ、けがれし者、人殺しの弟子よ、お前の悪事の仕儀をわたしにも示すがよい。どのようにしてお前がキリストの裏切り者となったのかを。
- 63] わたしは、あなたを畏れるすべての者、あなたの定めを守る者たちを友とする。
- 63) あたかも人間愛に満ちた者であるかのように、愚か者よ、お前は欺く。そして盲目にして破滅に最も近き死者よ、お前は敬意ゆえに香油を売った。
- 64] 主よ、あなたの慈しみに地は満ちている、あなたの掟をわたしに学ばせたまえ。
- 64) 天上の香油に対し、お前はどのような敬意を抱いているのか？ この貴重なものの対価として、お前は何を受け取ったのか？ いとも呪いに満ちたサタンよ、お前は敵意を見出しただけだ。
- 65] 主よ、あなたは自らの僕とともに、あなたの言葉にしたがって善きことを為す。
- 65) もしお前が貧しさを愛する者であるのなら、そして靈魂の贖いの座のために空になった香油のことで心痛めるのなら、どうして光輝く方を黄金で売り飛ばすのか。

- 66] 識別, 判断, 知識をわたしに教えたまえ, わたしがあなたの規律を信じられるように.
- 66) おお神にして御言葉, わが喜びよ, わたしは如何にしてあなたの3日間に及ぶ埋葬に耐えることができようか. 今やわたしのはらわたは, 母親の如くに張り裂ける.
- 67] わたしは打ち碎かれる前, 罪を犯した. だが今や, わたしはあなたの言葉を守る.
- 67) 「誰がわたしに水を, そして涙の泉を与えてくれるのか?」と神の花嫁である乙女は詠嘆した. わが甘美なるイエスのことを嘆くために.
- 68] あなたは良き方, その良さをもって, わたしにあなたの掟を学ばしめたまえ.
- 68) おお丘よ, 谷よ, 人の群れよ, 大いに嘆き悲しむがよい. われらの神の母なるわたしとともに.
- 69] 傲岸な者たちはわたしの上に欺瞞を塗りつける. だがわたしは, あなたの規律を守る.
- 69) 救い主よ, 何時わたしは, 時を超えた光, わが心の喜びと楽しみであるあなたにまみえることができるのか? おとめは嘆きつつ叫ぶ.
- 70] 彼らの心は牛乳のように弛緩している. だがわたしは, あなたの法を喜びとする.
- 70) 救い主よ, あなたは鋭き巖の如く, 切っ先を受けようとも, 活ける流れを迸らせた. 生命の泉なれば.
- 71] わたしにとって, わたしが心碎かれていることは良い. あなたの掟を学ばんがため.
- 71) あなたの脇腹が二筋の河を迸らせたとき, われらはそこを唯一なる泉として潤され, 不死なる生命を賜った.
- 72] わたしにとっては, 1000の黄金や白銀よりも, あなたの口から出る法のほうが良い.
- 72) 御言葉よ, あなたは自ら望み, 墓の中で死者としての姿をさらしつつも, 生きたまま, 予め告知してあったように, わが救い主よ, あなたの復活によって人々を目覚めさせる.

・「栄光は父と子と聖霊に」(下記※参照)

・御言葉よ, あなたは万物の神, われらはあなたに讃歌を献げる. 父とあなた

の聖霊とともに、そしてあなたの神的なる埋葬に栄光を帰す。

- ・「今もいつも世々とこしえに」
- ・浄らかなる神の母よ、われらはあなたを幸いなる者と呼ぶ。そしてあなたの御子にしてわれらの神の三日間にわたる埋葬を、敬虔に尊ぶ。
- ・(第1トロバリオン) キリストよ、あなたは生命そのものでありながら、墓に葬られた。そこで天使たちの群れは驚嘆した、あなたの降下を讃えながら。

※注記：通常の朝課であれば、「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3。「主よ憐れみたまえ」×3。「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」という句が、ここに連続で挿まれる。これは通常のカティズマ扱いによる詩編第118編に対するものであるが、「エルサレムの朝課」では異なる。

司祭による小連祷。声を挙げて

「あなたの名は祝され、父と子と聖霊なるあなたの王国は栄光を帰せられる。今もいつも世々とこしえに」。

司祭は香を振る。

第2 スタシス

○生命の与え主であるあなたを讃えるのは相応しきこと、あなたは十字架上に両の手を伸ばし、敵意の力を打ち砕いた。

73] あなたの両の手はわたしを創り、わたしを確かにされた。あなたの規律を解し学ばせんがため。

73] 万物の創造主であるあなたを讃えるのは相応しきこと。なぜならあなたの受難によってわれらは腐敗から救われ、無受動を手に行っているのだから。

74] あなたを畏れる者たちがわたしを見て喜ばんがため、わたしはあなたの言葉を待ち望む。

74] 救い主よ、大地は震撼し、太陽は身を隠す。キリストよ、陰りを知らぬあなたの光が、墓の中にあっても実体として力を持つがゆえに。

75] 主よわたしは知る、あなたの裁きが義しいことを。あなたはまことをもってわたしを苦しめる。

75] キリストよ、あなたは生命をもたらす眠りを墓の中で眠り、重き罪の眠り

から、人類の民を蘇らせた。

- 76] どうかあなたの慈しみが、あなたの僕であるわたしの慰めとならんことを、あなたの仰せのごとくに。
- 76) 「女の中で唯一、わたしは苦しみなく、子であるあなたを産んだ。今やあなたの苦しみにあわせて、担い難き苦しみを担おう」と恐れ多き女性は語った。
- 77] あなたの憐れみがわたしのもとに来たらんことを。さすればわたしは生きる。あなたの法はわが喜び。
- 77) 救い主よ、天上界にあってあなたは父と分かち難く共在し、地下界にあっては死者として大地に横たわる。これを見てセラフィムは震撼する。
- 78] 高ぶる者たちが恥じ入らんことを。彼らは悪をもってわたしを歪曲するも、わたしはあなたの定めを語る。
- 78) 御言葉よ、神殿の垂れ幕は、あなたの磔刑により裂ける。太陽よ、あなたが大地の下に隠れるとき、星辰はその光を隠す。
- 79] あなたを畏れる者たち、あなたの論しを知る者たちが、わたしの許に立ち帰るように。
- 79) 初めに、ただうなずきをもって大地の巡りを据えた方は、人として息もせず大地の下に潜んだ。天よ、この光景に震撼せよ。
- 80] わが心があなたの掟により、まったきものとならんことを。わたしは恥じ入ることがない。
- 80) 人間を自らの手で創造した方よ、あなたは大地の下に身を潜めた。それは人類の群れを、万能の力持つ権限もて、墮落から立ち上がらせるため。
- 81] わたしの魂はあなたによる救いに飢え渴き、あなたの言葉を待ち望む。
- 81) 見よ、われらは聖なる挽歌を、死せるキリストに歌う。まずは、かの香油を携える女たちの如く、彼女たちとともに「やあ」という声を聞かんがために。
- 82] わたしの両の眼は、あなたの仰せのために消え入る。いつ、わたしはあなたを慰めると言ってくださるのか。
- 82) 御言葉よ、あなたは真に、虚しさとは無縁の香油。香油を携える女たちは、あなたの許から、生ける死者であるあなたのために、香油をも携えて来た。
- 83] というのもわたしは、濃い煙の中の革袋のよう、あなたの掟をわたしは忘れない。
- 83) キリストよ、あなたは冥府に葬られ、その王国を打ち砕き、死をもって死

を死せるものとした。それは人祖たちを腐敗から贖い出すため。

- 84] あなたの僕の日々はどれほどなのか、わたしを迫害する者たちに対し、あなたはいつ裁きを行われるのか。
- 84) 神の智慧は、生命の河の流れを注ぎ出し、埋葬を受けて、冥府の不可侵なる淵にいる者たちを、生命あるものとした。
- 85] 高ぶる者たちは、わたしに対して陥穽を掘った。それはあなたの法に合うものではない。
- 85) 「わたしは、人の摩滅した本性を新たにするために、自ら望んで肉の上で死をもって打たれた。だから母よ、嘆きのために胸を打つことはなさない」。
- 86] あなたの規律は、すべて真実。人々はわたしを偽りで迫害する。彼らからわたしを助けたまえ。
- 86) 正義の光のもたらし手よ、あなたは身を潜め、死者たちを、あたかも眠りから覚ますかのように蘇らせ、そして冥府にある闇を、すべて駆逐した。
- 87] 彼らはこの土地でほとんどわたしを滅ぼさんとする。しかしわたしは、あなたの定めを棄てることはしない
- 87) あなたは二重の本性を有する辛し種、本性的に生命である方。あなたは大地の懷に、きょう涙とともに蒔かれた。だが喜びの創造によって、世を発芽させた。
- 88] あなたの慈しみにしたいが、われを生かしたまえ。わたしはあなたの口の論しを守ろう。
- 88) アダムは、神が楽園を散歩しているときには驚愕したが、神が冥府を訪れたときには喜んだ。かつては墮ちたが、いまは目覚めたのだ。
- 89] 主よ、あなたの言葉は永遠に、天において固く立つ。
- 89) キリストよ、あなたを生んだ女性は涙ながらに、あなたのために神酒を注ぐ。肉体的には墓に納められた子に、「子よ、かつてあなたが予言したとおり、蘇り給え」と。
- 90] とこしえに、あなたのまことは固く立てられ、地も固く立つ。
- 90) ヨセフは、あなたを恭しく新しき墓に収め、神に相応しき惜別の讃歌を、救い主よ、あなたのために、挽歌ともども献げる。
- 91] 今日それらはあなたの裁きのために立っている。万物はあなたの僕なるがゆえに。
- 91) 御言葉よ、あなたの母は、十字架上に釘で打ち付けられたあなたを目にして。その靈魂を、苦き苦しみの釘と槍で貫かれた。

- 92] もしあなたの法がわが楽しみでないなら、わたしは自らの悩みのうちに滅びたであろう。
- 92) 万物の甘美さであるあなたが、苦き飲み物を飲むのを目にして、母はその両の目を涙に苦く濡らす。
- 93] 永遠に、わたしはあなたの定めを忘れない、それらによりわたしは生かされてきたが故に。
- 93) 「御言葉よ、わたしはいたく傷つき、はらわたを引き裂かれる、あなたに対する不法なる虐殺を目にして」。いとも清らかなる女性は嘆きのうちにこう悲しむ。
- 94] わたしはあなたのもの、われを救いたまえ。われはあなたの定めを尋ね求めるが故に。
- 94) 御言葉よ、あなたの甘美な目と唇を、如何に閉ざそうか。死者に相応しく、いかに弔おうか。ヨセフはおののきつつ、叫びを挙げる。
- 95] わたしに悪しき者たちは滅びを望む。だがあなたの論しをわたしは理解する。
- 95) ヨセフとニコデモは、亡き者となったキリストに、いま葬礼の讃歌を献げる。だが彼らとともに、セラフィムもまた歌声を挙げる。
- 96] すべてにおいて完成と終わりがあるのをわたしは見た。あなたの規律は限りなく広大。
- 96) 救い主よ、正義の太陽よ、あなたが大地の下に潜ったため、あなたを産んだ月は、あなたの面影を失い、悲しみに包まれる。
- 97] わたしはどれほどあなたの法を愛したことか。一日中、それはわたしの観想。
- 97) 救い主よ、冥府は、生命の与え主であるあなたの姿を見て震撼する。あなたが冥府の富を奪い去り、太古の昔からの死者たちを蘇らせるのを目にして。
- 98] あなたはあなたの規律により、わが敵よりもわたしを知恵あるものとされた。それは永遠にわたしのもの。
- 98) 御言葉よ、太陽は、夜の後に輝きもて光を放つ。あなたもまた、どうか蘇って光を放ちたまえ。死の後に、あたかも婚礼の閨から輝きを放つが如くに。
- 99] わが教えの師すべてに比して、わたしは理解に優れる。あなたの論しはわたしの観想。

- 99) 創造主よ、大地はあなたを、震撼のうちに自らの懐に受け入れ、かき抱いたまま揺れ動く。振動のうちに死者たちを眠りから覚ましつつ。
- 100] わたしは長老たちに比して理解に優れる、わたしはあなたの定めを守るがゆえに。
- 100) キリストよ、ニコデモと神を畏れるヨセフは、新たな埋葬に似つかわしく、いまあなたを香油で覆う。全地よ、叫びを挙げ、震撼せよ。
- 101] すべての悪の道から、わたしはわが両の足を止めた。あなたの言葉を守らんがため。
- 101) 光のもたらし手よ、あなたは身を潜め、太陽の光もまた、あなたとともに沈んだ。被造物は鳴動に捕えられ、万物の創造主であるあなたを告げ知らせる。
- 102] わたしはあなたの裁きから離れることがない、あなたはわたしを教えたがゆえに。
- 102) 切り出された石が、隅の親石を隠す。死すべき人間が、神をあたかも死すべきものであるかのように、いま墓に隠す。大地よ震撼せよ！
- 103] あなたの掟は、わたしのあごに何と甘美であることか。わたしの口には蜜よりも。
- 103) 見よ、あなたの愛した弟子を、そしてあなたの母を。わがいとも愛しき子よ、言葉を発しなさい！と涙しつつ、清らかなる女性は叫んだ。
- 104] あなたの掟をわたしは理解する、あらゆる悪の道からわたしは離れる。
- 104) 御言葉よ、あなたは生命のうちにある者、コロスの導師として、十字架に懸かりながらもユダヤ人たちを死せるものとはせず、むしろ、彼らのうちの死者たちをも蘇らせた。
- 105] あなたの言葉はわたしの足の灯、わたしの小道の光。
- 105) 御言葉よ、あなたは先に受難の折には美しさもその姿も持ち合わせなかった。しかし類まれな輝きをもって蘇り、神的な光もて人類を美しく装った。
- 106] わたしは誓い、そして果たす、あなたの義の裁きを守るために。
- 106) 翳ることのない光のもたらし手よ、あなたは肉を伴って地の下に降り立った。太陽はこれを目にすることができず、真昼の輝きの中で闇に覆われた。
- 107] わたしは甚だしく卑しめられている。主よ、あなたの言葉どおりにわたしを生かしたまえ。

- 107) 救い主よ、太陽と月とは、ともに光を失い、善き思いの僕たちを彷彿とさせる。黒い衣を羽織れるがゆえに。
- 108] わが口の供え物を、どうか主よ、受け取りたまえ、そしてあなたの裁きを学ばせたまえ。
- 108) たとえあなたが亡き者となろうとも、百人隊長はあなたのことを神だと知っている。それゆえわが神よ、どうしてわたしがあなたにこの両の手で触れ得ようか。わたしは戦慄する、とヨセフは叫んだ。
- 109] わが魂は常にわが掌にあり、あなたの法を忘れることがない。
- 109) アダムは眠った、だがその脇腹から死を生み出す。しかし神の言葉よ、あなたはいま、眠りにおちるも、あなたの脇腹から世に生命をわき出させる。
- 110] 悪しき者たちはわたしに対してわなを仕掛けた。しかしわたしはあなたの定めから逸れることがない。
- 110) 善き方よ、あなたは束の間眠りにおち、死した者たちに生命を与えた。そして、眠れる者たちを永遠の時間から蘇らせつつ、蘇った。
- 111] わたしは永遠にあなたの論しを嗣業として受け取る。それらはわが心にとっての喜び。
- 111) 生命をもたらすブドウの木よ、あなたは大地から挙げられ、しかし救いの葡萄酒を発芽させた。わたしはその苦難と十字架とに栄光を帰す。
- 112] あなたの掟を為すために、わたしはわが心を傾ける。永遠に、そしてとこしえに。
- 112) 救い主よ、思惟界の位階の長たちは、あなたが裸で、血まみれで裁かれるのを目にして、十字架に懸けられた者たちの横暴を如何に耐えたのか。
- 113] ふた心の者たちをわたしは憎み、わたしはあなたの法を愛する。
- 113) 呪われた、いとも偏屈なユダヤの民よ、あなたは神殿の蘇りを知っている。なぜキリストを断罪したのか。
- 114] あなたはわが覆いにしてわが盾、わたしはあなたの言葉を待ち望む。
- 114) 万物を飾る衣として、あなたは嘲りの外套を身にまとう。あなたは天を据え、大地をも驚くべき仕方で飾った。
- 115] わたしから、悪事を働く者たちを逸らせたまえ。わたしは神の規律を守るであろう。
- 115) あたかもペリカンの如くに、御言葉よ、あなたは自らの脇腹に傷を負いつつ、死したあなたの子供たちを生き返らせ、彼らに生命の泉を賜った。

- 116] わたしを支えたまえ、あなたの言葉の通りに。わたしは生きるであろう。そしてわが望みにおいてわたしを辱しめたもうな。
- 116) かつてヨセフは、異邦人らを撃つときに、太陽を留めた。だがあなたは、闇の支配者を征するために、自ら身を隠した。
- 117] われを支えたまえ、わたしは救われるであろう。わたしは倦むことなくあなたの掟を見つめる。
- 117) 憐れみ深き方よ、あなたは父祖のはらわたに分ち難く留まったまま、人となることを受諾された。そしてあなたは、キリストよ、冥府に降られた。
- 118] あなたは放置した、あなたの掟から迷い出る者たちすべてを。彼らの欺きは悪しきもの。
- 118) 水の中に大地を懸けた方は、十字架に懸かって挙げられ、いまや大地の下に息もせぬ者として横たわる。大地は彼を抱くことができず、恐れに震撼した。
- 119] 地の悪人どもすべてを、あなたは金粕の如くに断たれた。わたしはあなたの論しを愛する。
- 119) ああ、息子よ！ 男を知らぬ乙女は嘆きつつこう語る。わたしが王として希望をかけていた方を、いまわたしは、断罪された者として十字架上に見る。
- 120] わが肉は、あなたの恐れゆえに逆立つ。そしてあなたの裁きをわたしは恐れる。
- 120) 母は言う、これこそ、ガブリエルがわたしに現れたときに告げたこと。かの大天使は、わが子イエスによる永遠の王国を告げたのだ、と。
- 121] わたしは裁きと義をおこなう。わたしを虐げる者たちにわれを委ねたもうなかれ。
- 121) ああ、シメオンの予言は的中してしまった。なぜならあなたの剣は、わが心インマヌエルを貫いたがゆえに。
- 122] 善のためあなたの僕の保証人となり給え、高ぶる者たちがわたしを虐げることのないように。
- 122) おおユダヤ人たちよ、たとえあなた方が恥じ入ろうとも、あなた方が嫉妬心から亡き者とした生命の与え主は、死者たちを蘇らせたのだ。
- 123] わが両の眼は慕い求める、あなたの救いと、あなたの義の仰せを。
- 123) わがキリストよ、太陽は、目に見えぬ光であるあなたが墓に息もせず隠

されているのを見て戦慄し、その光を陰らせる。

- 124] あなたの慈しみに即してあなたの僕に為したまえ。そしてあなたの掟を学ばせたまえ。
- 124) 御言葉よ、まったく非の打ち所なきあなたの母は、言葉にし尽くせず並ぶものなき神なるあなたを、墓のうちに目にして、いたく嘆き悲しんだ。
- 125] われはあなたの僕、われに理解させたまえ、そしてあなたの諭しを知らせたまえ。
- 125) キリストよ、まったく腐敗とは無縁なあなたの母は、あなたの亡骸を目にし、あなたに向かって痛々しくもこう声をかける。死者たちのうちにあっても、生命であるあなたが生命を失うことはない。
- 126] いまこそ主の為すべき時、彼らはあなたの法を棄てたがゆえに。
- 126) 恐ろしき冥府は、あなたを目にして鳴動した。不死なる栄光の太陽よ、そして桎梏の下にある者たちを急いで差し出した。
- 127] それゆえわたしはあなたの規律を愛する、黄金よりも、純金よりも。
- 127) 救い主よ、いま大いなる震撼すべき光景が目に見える。なぜなら生命の原因たる方が、自ら望み、すべての者を生かしめようと望んで、死を甘受したため。
- 128] それゆえあなたの定めの手、小道の手をわたしは悉く正し、悪から離れる。
- 128) 主よ、あなたは脇腹に刺し傷を負い、両手に釘跡を帯びつつも、あなたの脇腹に負った太祖たちの手による打撃を癒した。
- 129] あなたの諭しは驚くべきもの、それゆえわが魂はそれらを守る。
- 129) かつてはラケルの息子のことを、家を挙げて全員で嘆いた。今や乙女の子のために、弟子たちの群れは母とともに胸打ちたたたく。
- 130] あなたの言葉を披くことで光が差し染める。それは無学の者たちを悟らせる。
- 130) その手で人を創り、野獣のあごを砕いたキリストのほおあごに、人々は、その手で平手打ちを食らわせる。
- 131] わたしはわが口を開く、そして渴望する。あなたの規律を慕い求めるがゆえに。
- 131) キリストよ、すべての信篤き者らは、あなたへの讃歌をもって、いまや十字架と埋葬とを神的なるものとする。あなたの埋葬によって死から贖われたがゆえに。

- ・「栄光は父と子と聖霊に」
- ・始めなき神よ、時を同じくする御言葉、そして聖霊よ、善き方として、敵勢に對し、首長らの筋を強めたまえ。
- ・「今もいつも世々とこしえに」
- ・まったく咎なく浄らかなるおとめよ、生命を産んだ方よ、教会の躓きを止めさせたまえ、そして善き方として、英和を固めたまえ。
- ・(第1トロパリオン) 生命の与え主であるあなたを讃えるのは相應しきこと、あなたは十字架上に両の手を伸ばし、敵意の力を打ち砕いた。

司祭による小連祷。声を挙げて

「われらの神であるあなたは聖なる方、あなたはケルビムの栄光の座に坐しておられる、われらは、支配されぬあなたの父、いとも聖にして善き、生命をもたらす霊とともに、あなたに栄光を帰す。今もいつも世々とこしえに」。

司祭は香を振る。

第3 スタシス

○すべての世代は、あなたの埋葬に讃歌を献げる、わがキリストよ。

132] あなたの面をわたしに向けたまえ。そしてわたしに憐れみを注ぎたまえ、あなたの名を愛する者たちへの裁きにしがって。

132) アリマテヤの男は、あなたを十字架の木から取り降ろし、墓に埋葬する。

133] わが歩みを確かなものにしたまえ、あなたの仰せにおいて。そしてすべての不義に對し、わたしを治めさせるなかれ。

133) 香油を携えた女たちがやって来て、わがキリストよ、あなたのために香油を丁重に運ぶ。

134] わたしを贖いたまえ、人の虐げから。わたしはあなたの定めを守ろう。

134) さあ全被造物よ、惜別の讃歌を、創造主に献げようではないか。

135] 御顔をあなたの僕に輝かせたまえ、わたしにあなたの掟を学ばせたまえ。

135) 生ける死者に對して、われわれも皆、香油を携える女たちとともに、慎ましやかに香油を塗ろう。

136] わたしの両の眼は水の流れを滴らせる。彼らがあなたの法を守らぬがゆえに。

136) 三倍にも幸いなるヨセフよ、生命の与え主イエスの亡骸を丁重に扱うがよい。

- 137] 主よあなたは義しき方、あなたの裁きは揺らぐことがない。
- 137) マンナが育んだ者たちが、恩人に逆らってかかとを挙げた。
- 138] あなたは課した、あなたの諭しの義とまことを。それは計り知れない。
- 138) マンナが育んだ者たちが、救い主のために、苦菜と酢とを運ぶ。
- 139] わが熱情がわたしを滅ぼす。わが敵どもがあなたの言葉を忘却したがゆえに。
- 139) おお何たる錯乱、キリスト殺しの錯乱に、預言者殺しの錯乱とは。
- 140] あなたの仰せはいとも練り上げられたもの、あなたの僕はそれを愛する。
- 140) 何と愚かしき執事であることか、秘儀を受けた者が、智慧の深淵を欺いた。
- 141] わたしは若く、軽んじられる。だがわたしは、あなたの定めを忘れることがなかった。
- 141) 贖い主を売った者が、捕虜となった、それは企みに満ちたユダ。
- 142] あなたの義は永遠に正しく、あなたの法はまこと。
- 142) ソロモンに拠れば、ユダヤ人は不法者にして、口は深き穴。
- 143] 苦難と窮乏とがわたしを見出す。あなたの規律はわが楽しみ。
- 143) 不法者なるユダヤ人たちの鉄ビスと罫とは、曲がった道に置かれている。
- 144] あなたの諭しは永遠に正しい。わたしに理解させたまえ、するとわたしは生きる。
- 144) ヨセフは、ニコデモとともに、亡き者に相応しく創造主を弔う。
- 145] わたしは心を尽くしてあなたを呼び求める、主よ、われに答えたまえと。あなたの掟を守らせたまえ。
- 145) 生命の与え主である救い主よ、冥府を打ち砕いたあなたの力に栄光あれかし。
- 146] わたしはあなたを呼び求める、わたしを救いたまえと。わたしはあなたの諭しを守るだろう。
- 146) 御言葉よ、息絶えたあなたを目にして、いとも清らかなる女性は、母に相応しく挽歌を歌う。
- 147] わたしは夜明けに先んじ、叫び求め、あなたの言葉を待ち望む。
- 147) おお、わが甘美なる春、わが最も甘美なる子、あなたの美しさはどこに身を潜めたのか。
- 148] わが両の目は夜警に似てまんじりともせず、あなたの言葉を喜びとする。

- 148) 御言葉よ、あなたのいとも清らかなる母は、あなたが死者となったとき、嘆きの歌を始めた。
- 149] 主よ、あなたの慈しみに従ってわたしの声を聴き、あなたの義に応じてわたしを生かしたまえ。
- 149) 香油を携えた女たちは、神の香油なるキリストに香油を塗るためにやって来る。
- 150] 企みによって迫害する者たちが近づく、彼らはあなたの法からは遠い。
- 150) わが神よ、あなたは死をもって死を死せるものとした。あなたの持つ神の力をもって。
- 151] 主よあなたは近くにいます。そしてあなたのすべての規律はまこと。
- 151) わが神よ、詐欺師は欺いたが、欺かれた者は贖われた、あなたの智慧によって。
- 152] はじめからわたしは、あなたの論しにより知っていた、あなたがそれらの礎を永遠の昔に敷いたということ。
- 152) 裏切者は、冥府の底に落ちていった、腐敗の井戸の中を。
- 153] わが苦しみに目を注ぎ、わたしを救い出したまえ。あなたの法をわたしは忘れることがなかった。
- 153) アザミと罌、それは三倍にも不幸な者、錯乱に陥ったユダの道。
- 154] わが争いを争いたまえ、そしてわたしを贖いたまえ、あなたの仰せにおいてわたしを生かしたまえ。
- 154) 御言葉よ、神の子よ、あなたの兵士らはすべて、悉く身を浄める。
- 155] 救いは悪しき者たちから遠い。彼らはあなたの掟を尋ね求めぬがゆえに。
- 155) 血の者どもはすべて、腐敗の井戸で身を洗う。
- 156] 主よ、あなたの憐れみは計り知れず、あなたの裁きに従ってわたしを生かしたまえ。
- 156) 神の全能なる子よ、わが創り主である神よ、あなたはいかにして苦難を受け入れたのか。
- 157] わたしを迫害する者たちとわたしの敵どもは数多い。だがわたしは、あなたの論しから逸れることがなかった。
- 157) 雌牛は木に懸けられた子牛を見つめながら呻いた。
- 158] わたしは裏切り者どもを目にし、忌み嫌う。かれらはあなたの仰せを守ることがない。
- 158) 生命をもたらす亡骸を、ヨセフは弔う、ニコデモとともに。

- 159] 主よ、あなたの定めをわたしが愛するのを見そなわしたまえ。あなたの慈しみに従ってわれを生かしたまえ。
- 159) おおめは熱い涙を滴らせつつ、はらわたを貫かれて、嘆きの叫びを挙げる。
- 160] あなたの言葉の頭は真実、あなたの義の裁きはすべて永遠。
- 160) おおわが両の眼の光よ、わが最も甘美なる子よ、どうしていま、あなたは墓に身を隠すのか？
- 161] 国々の長たちは、理由もなくわたしを迫害する。だがわたしの心はあなたの言葉を畏れる。
- 161) 母よ、アダムとエヴァとが解放されることを嘆くなかれ。わたしはこれを耐える。
- 162] あなたの仰せにわたしは悦ぶ。幾多の戦利品を見出した者のごとくに。
- 162) わが子よ、わたしはあなたの極まれる憐れみ深さを讃える。その憐れみ深さゆえに、あなたはこれらの事どもを被ったのだ。
- 163] わたしは悪を憎み、忌み嫌う。わたしが愛するのはあなたの法。
- 163) 憐れみ深き者よ、あなたは酢と苦みを飲み干した、かつて味わいには存在しないようにしたものを。
- 164] 日に七度、わたしはあなたを讃美する。あなたの裁きの義をめぐって。
- 164) かつて、あなたの民を雲の柱で覆った方は、絞首台に縛りつけられた。
- 165] あなたの法を愛する者たちに、平和は豊かであり、彼らには躓きがない。
- 165) 救い主よ、香油を携えた女たちが墓に赴き、あなたに香油を献げた。
- 166] 主よわたしはあなたの救いを待ち望み、あなたの規律を実行する。
- 166) 憐れみ深き者よ、あなたが冥府より立ち上がる時、われらを破滅の淵より救い出したまえ。
- 167] わが魂はあなたの諭しを守り、大いにそれらを愛する。
- 167) 「生命の与え主よ、立ち上がり給え」。あなたを産んだ母は、涙を流しながら語る。
- 168] わたしはあなたの定めと諭しを守る。わたしの道はすべて、あなたの前にある。
- 168) 御言葉よ、急いで蘇り給え、あなたを清らかに産んだ母の苦しみを解き放って。
- 169] 主よ、わが叫びがあなたの前に届かんことを。あなたの言葉のとおりにわたしが覚らんことを。

- 169) 天の諸力は、あなたが亡くなったのを目にし、恐れに驚愕した。
- 170] わが願いよ、あなたの面前に赴くがよい、あなたの言葉がわれを救い出してくれるように。
- 170) 愛と恐れゆえに、あなたの苦難を崇める者たちに、過ちからの解放を与え給え。
- 171] わが唇が讃美を告げ知らせんことを。あなたはわたしに、あなたの掟を学ばせる。
- 171) 神のみ言葉よ、おお恐るべき奇異なる光景であることよ！ どうして大地があなたを隠せようか？
- 172] わが舌があなたの仰せに応えんことを。あなたの規律はすべて正しい。
- 172) 救い主よ、かつてヨセフはあなたを携えながらも、あなたから逃れた。今や別のヨセフがあなたを埋葬する。
- 173] わたしを助けんがため、あなたの御手が生きんことを。わたしはあなたの定めを選び取る。
- 173) わが救い主よ、いとも清らかなるあなたの母は、あなたが亡き者となったことを嘆き、あなたを悼む。
- 174] 主よ、わたしはあなたの救いを慕い求める。あなたの法はわが喜び。
- 174) 諸々の理性は、万物の創造主なるあなたの、異縁にして戦慄すべき埋葬に震撼する。
- 175] わが魂が生き、あなたを讃美せんことを。そしてあなたの裁きがわたしを助けんことを。
- 175) 香油を携える女たちは、墓にて香油の式を執り行うべく、いとも朝早くに墓に着いた。
- 176] わたしは迷い出た小羊の如くに滅びゆく。どうかあなたの僕を探し出たまえ。あなたの規律をわたしは忘れぬがゆえに。
- 176) 教会に平安を、あなたの民に救いを、あなたの目覚めによって賜わられたまえ。

- ・「栄光は父と子と聖霊に」
- ・わが神なる三位一体よ、父と子と聖霊よ、世を憐れみたまえ。
- ・「今もいつも世々とこしえに」
- ・おとめよ、あなたの僕たちをして、あなたの御子の復活を見るに適う者とさせたまえ。

この後直ちに復活讃歌（エウロギタリア）が続く。これは通常の朝課と同じものであり、ここで「エルサレムの朝課」は通常の朝課の次第と合流する。

- ・主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ。
- ・天使たちの群れは、救い主よ、あなたが死者たちのうちに数えられているのを目にして驚きをなす。だがあなたは死の力を撃ち滅ぼし、自らとともにアダムを起こし、すべての者どもを冥府より解放された。
- ・主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ。
- ・おお女弟子たちよ、なぜあなた方は泣きながら、香油を涙で薄めるのか？墓場で、光り輝く衣をまとった天使は、香油を携える女たちにこう述べた。あなた方は墓石を見て、気づきなさい。救い主は復活して墓から出られたのだ。
- ・主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ。
- ・朝早く、香油を携える女たちは、悲しみの歌を口ずさみつつあなたの墓へと走った。だが墓の上には天使がいて、彼女たちにこう言った。悲しみの歌を歌うべきときはもう過ぎた。嘆くのではない。むしろ弟子たちに復活を告げよ。
- ・主よあなたは祝された方、あなたの掟をわたしに教えたまえ。
- ・救い主よ、香油を携える婦人たちは、あなたの墓に、香油とともにやって来て、嘆きの声を挙げていた。ところが天使は彼女たちに向かってはっきりとこう言った。なぜあなた方は亡き者たちの中に、生ける者を探すのか。あの方は神として、墓からよみがえられたのだ。

「栄光は父と子と聖霊に」。

- ・【三位一体頌】父と、その方の子と、聖なる霊にわれらは跪く。一なる本性のうちにある聖三位一体に対して、セラフィムとともに「主よあなたは聖なる方」と叫びつつ。

「今もいつも世々とこしえに」。

- ・【聖母頌】おとめよ、生命の与え主を産んだ方よ、あなたはアダムの罪を贖い、エヴァには苦しみに代えて喜びを与えられた。あなたから肉を受けた神にして人なる御子は、生命から墮ちたアダムを、生命に向けて導いた。

「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3。

- ・（司祭主導）小連禱、その最後に司祭は声を挙げて

「われらの神なるキリストよ、あなたは平和の王、われらはあなたに向け、始

めなきあなたの父、いとも聖にして善性に満ち生命を与えるあなたの霊に向けてとともに、栄光を帰す。今もいつも、世々とこしえに至るまで」。

以降、前章に概要を記したような次第で「エルサレムの朝課」は進められてゆく。これ以降の次第については秋山（2022）を参照されたい。

4. 結.

以上、本稿ではビザンティン典礼で聖土曜日に行われる「エルサレムの朝課」の前半部、すなわち通常の朝課では「復活讃歌」の前に置かれる部分に相当する「エンコーミア」を、詩編第 119 (118) 編からの交誦句とともに訳出した。本稿の第 2 章において瞥見したように、聖土曜日の典礼次第にあっては、通常の朝課で中心的位置を占める福音朗読が、その前段階となる旧約預言書からの朗読、および使徒パウロの書簡からの朗読に後続する形で、朝課の最終部分に置かれているのが印象的であった。通常の朝課にあっては、福音朗読がその中心的位置を占めると明言しうのに対し、聖土曜日には、翌日に到来する「復活」という事実の方が、聖書朗読という「形態」に優る、との認識が優先されていると言えるだろうか。もっともビザンティン典礼では、その聖土曜日の典礼の冒頭近くに、「エンコーミア」との交唱により詩編第 119 (118) 編が読誦されるわけで、この点は、この詩編が有する予型論的な重要性を、典礼式次第の上に十全に反映させた工夫だと言えるだろう。なお繰り返しになるが、聖土曜日朝課の後半部とその神学については、拙稿（秋山 2022）を参照されたい。

ビザンティン典礼が、このような詩編第 119 (118) 編の朗読と併せ、「エルサレムの朝課」を自らの次第として取り込んだのは、おそらくイコノクラスム（聖画像破壊運動）が暴威をふるった 9 世紀初頭ごろ、ストゥディオス修道院の院長テオドロス（759-826）が、エルサレムのサバ修道院から数名の修道士たちを招聘したことにその淵源を有するという推測が可能である（Nyirán 2005）。このことは、本稿の冒頭に記したように、この次第を載せる最古の写本が 1122 年に遡ること、あるいはビザンティン典礼になぜエルサレム起源の次第が伝わっているのか、その理由を考えたときに自ずから明らかになるように思われる。

詩編第 119 編は、旧約聖書詩編の中で最も長大である反面、ヘブライ文字

を各詩節の冒頭に冠した詩編であることが知られるほか、律法教育上の工夫を凝らした技巧的な詩であることが明らかである（秋山 2020）。ビザンティン典礼に拠る限り、ギリシア語使用の枠から外に出ることはなく、そこには限界が存在したと言えよう。だが、旧約聖書の予型論的な意義をはじめ、旧約の持つ神学的な無限の深さを勘案するならば、この詩編を復活に先立つ聖土曜日の典礼のうちに取り込んだビザンティンの叡智は、われわれが言語の枠を超え、さらにその典礼様式の秘める深い神学的観点に光を当てるとき、新たな可能性を明らかにするに違いない。「エルサレムの朝課」は、その背景にある歴史的な経緯をも含め、われわれに深遠な観想を喚起する式次第なのである。

【参考文献】

- 秋山 学 2006 「「三密」と「三位一体」—密教とビザンツ神学における「言葉」の位置と意義」, 『比較文化研究』2, 13-20, 筑波大学比較文化学類。
- 秋山 学 2010a 「ハンガリーのギリシア・カトリック教会—典礼を中心に—」(荻野弘之編『続・神秘の前に立つ人間—キリスト教東方の霊性を拓く II—』125-183頁, 新世社。
- 秋山 学 2010b 『ハンガリーのギリシア・カトリック教会: 伝承と展望』, 創文社。
- 秋山 学 2020 「ビザンティン修道院典礼の本質—夜半課における詩編第119(118)編の意味づけをめぐる—」『文藝言語紀要』78, 49-77, 筑波大学大学院文芸・言語専攻。
- 秋山 学 2021 「大バシレイオスによる詩編唱和の内的意義—詩編第119(118)編を中心に—」『中世思想研究』63, 5-20, 中世哲学会。
- 秋山 学 2022 「「過渡性」における御言葉の沈黙」『古典古代学』14, 75-98。
- Ivancsó, István 1999, *Görög katolikus liturgika*, Nyíregyháza.
- Ivancsó, István 2000, *Görög katolikus szertartástan*, Nyíregyháza.
- Lakatos, László 2008, *Ünnepi könyv: A bizánci egyház liturgikus évéhez*, Nyíregyháza.
- Nyirán János 2005, “Sabato Santo” I-II, I: *Folia Athanasiana* 7(2005), 79-109; II: 8(2006), 63-86.
- Orosz, Atanáz 1998, *Nagyböjti Énektár* vagyis A három ódás bűnbánati énekek könyve, amely a szent nagyböjtben végzendő összes szent szolgálatot tartalmazza, Nyíregyháza.
- A. Papadopoulos-Kerameus 1894, *Ανάλεκτα ἱεροσολυμιτικῆς σταχυολογίας* II, St. Petersburg; https://books.googleusercontent.com/books/content?req=AKW5QaddF2SeGo1ytAqIDwLW2juw9FPmcU8c8N7DPCzWYkobRHHBZ4EAWaTjZhQ1vLfLdVx8fKNI6pH4JFtjnyjkMT7motwB99YRDhK1rygUNHxzvLXPzdHAvLD3gfCKHtAdPu8Z6zOuSnS2eoSOgRGK_OFoIzCdYgLMuZ2_LhmHofolV39oOAzIHUWjxobYC6Z9mwzbRT5F4u9UVdn22GtmaGJDkfpEnUJunctrRbPaD8iaftWp0NCzSOeCkvGPTP61FP7L2K19iUNe3IIZHDMI5NQbpxIo-U5SbW4hNrlwkbDTwXgより入手。最終閲覧日 2021年12月13日。

Τριφύδιον 1856, Venezia; <http://digital.lib.auth.gr/record/126142> より入手 (ファイル 6
及びファイル 7). 最終閲覧日 2021 年 12 月 13 日.